

通し番号	4 4 1 4
------	---------

分類番号	20-9C-32-01
------	-------------

(成果情報名) 関東・東海海況速報を用いたマサバ漁況予測の可能性
(要約) 2008年漁期の伊豆諸島海域におけるマサバの漁況経過を、マサバの集群や移動と海況変動および成熟の関わりに関する知見と、新しい高精度海況図を使って説明できるかを検討したところ、マサバの集群する海域や時期、移動や索餌北上のタイミングなど、漁業者が欲する漁況予測の精度が高まる可能性が示唆された。
(実施機関・部場名) 神奈川県水産技術センター・資源環境部 連絡先 046-882-2313

[背景・ねらい]

伊豆諸島海域に産卵回遊するマサバは海況変動と成熟度の変化が集群や漁場間移動に強く影響することが分かってきた。また、これまでより高精度な関東・東海海況速報の開発により、黒潮流路変動に伴う海況変化をより正確に把握できるようになった。本研究ではステップアップした海況情報を利用し、漁況予測精度を向上させることを目的とした。

[成果の内容・特徴]

- 1 2008年の伊豆諸島海域におけるたもすくい網漁期は、4月中・下旬に漁が低調となり、5月上旬好漁に転じ、同中旬に再び不漁となった(図1)。この経過を関東・東海海況速報とつぎ合わせたところ、以下のようなことが分かった。
- 2 不漁となった4月中旬は、黒潮の離岸により、漁場周辺には成熟したマサバの集群に適さない15~16℃の冷水が波及していたことを捉えていた(図2-①)。同じく不漁となった4月下旬は、黒潮小蛇行の東進により、漁場周辺は成熟したマサバの集群に適さない20℃~22℃の暖水に覆われていたことを捉えていた(図2-②)。このように、4月中旬と下旬の伊豆諸島海域でマサバが不漁となった原因が異なることが、海況図によって捉えられた。
- 3 好漁に転じた5月上旬は、黒潮小蛇行の東進により、漁場周辺はマサバの集群に適した18~20℃の暖水に覆われていたことを捉えていた(図2-③)。
- 4 再び不漁となった5月中旬は内側反流の勢力が強まったことにより、漁場周辺はマサバの集群に適さない20~22℃の暖水に覆われていることを捉えていた(図2-④)。5月下旬の神奈川県沿岸でのマサバの漁獲量が急増しており(図3)、図2-④以降、索餌北上したマサバの一部が、本県沿岸へ来遊したことを示すと考えられた。

[成果の活用面・留意点]

関東・東海海況速報の活用により、伊豆諸島海域におけるマサバの初漁の時期と場所、漁期中の集群海域、漁場間移動や索餌北上のタイミングなどがある程度予測できる可能性が示唆された。今後は、暖水や冷水の波及の程度と魚群の移動との関係を精査するとともに、集群規模の量的な把握や、索餌北上後の沿岸への来遊機構解明が必要である。

[具体的データ]

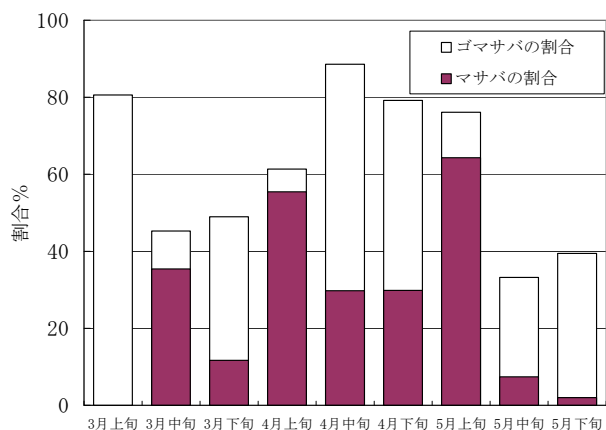


図1 2008年の伊豆諸島海域における神奈川県船のマサバ、ゴマサバの漁獲割合

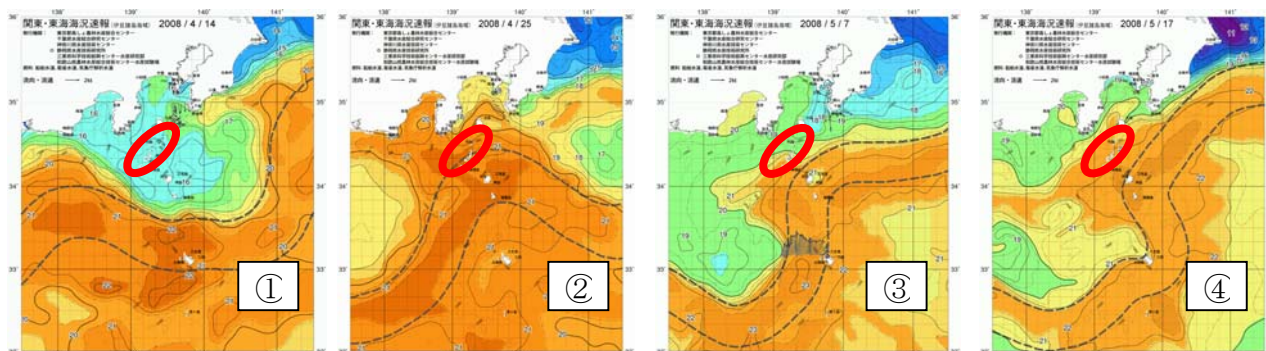


図2 2008年4月14、25日と5月7、17日の関東・東海海況速報（楕円は近年のマサバ漁場）

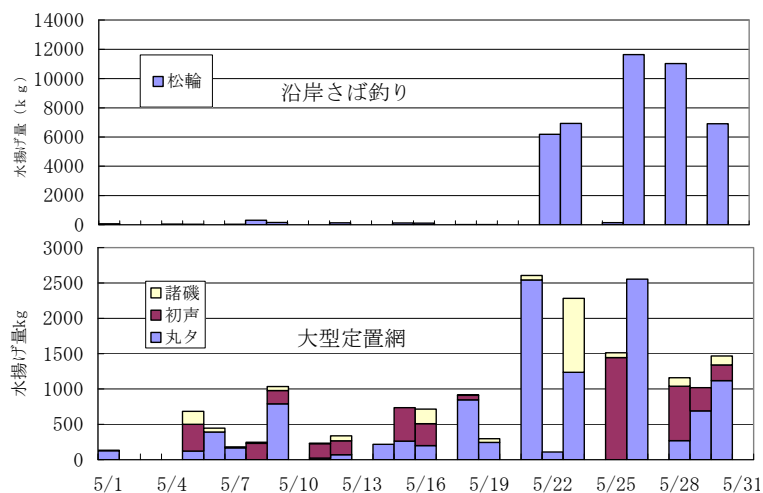


図3 2008年5月の神奈川県沿岸のさば釣り、定置網によるマサバの漁獲量

[資料名] 2008年度水産海洋学会研究発表大会講演要旨集

[研究課題名] 200海里水域内漁業資源調査

[研究期間] 平成7年～

[研究者担当名] 岡部 久・清水顕太郎・石井光廣*・川島時英*・吉田彰**・安部基温**・橋本浩***

千葉県水産総合研究センター、**静岡県水産技術研究所、***東京都島しょ農林水産総合センター

